

社会基盤整備、農業振興策及び 観光・産業振興策に関する提言書

令和4年3月

平泉町議会 産業建設常任委員会

社会基盤整備、農業振興策及び観光・産業振興策に関する提言

1.はじめに

世界的に続く地球温暖化による異常気象はわが国にとっても例外ではなく、昨今の自然災害は住民生活を脅かしています。

また、少子高齢化による人口減少が問題視されて久しく、そのことによる産業構造の変化は基幹産業である農業をはじめ、自然環境、暮らしに直結する地域経済にも大きな変化をもたらしています。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい災害にも等しい脅威となっており、コロナ後を見据えた包括的で持続可能な社会の構築が求められています。

こうした背景を踏まえ、住民にとって安心、安全で持続可能な社会づくりに取り組むために、住民要望等に対する継続的な改善策と対応策を方向付けることを目的として提言いたします。

2.本町を取り巻く状況と課題

本委員会は、①社会基盤整備について、②農業振興策について、③観光・産業振興策について調査してきました。

社会基盤整備については、長年の住民要望にもかかわらず進まない道路改良や、治山ダムへの対応が近年の地球温暖化に伴う自然災害との関係からも課題となっています。

農業振興では、遊休農地への対応と後継者対策が急がれ、また、鳥獣被害の拡大が急速に拡がる下でその対応が求められています。

観光・産業振興策ではとりわけ観光業が大きな柱となる当町にとっては、新型コロナウイルス感染症にかかる打撃が大きく、その対策は最大の課題です。また、地場の中小企業とともに、誘致企業への支援策も必要となっています。

3.調査及び検討の経過

(1) 所管事務調査

年月日	会議
令和2年6月12日	常任委員会、所管事務調査 ・(1)社会基盤整備について、(2)農業振興策について、(3)観光・産業振興策についてを調査し、提言へつなげることを確認。 ・調査事項の発議(案)協議

令和2年9月 10 日	常任委員会、所管事務調査 ・①町道大平線及び町道大佐3号線、②生活道路で町道認定されていない道路及び未舗装の町道について現地視察・調査
令和2年 12月 15 日	常任委員会、所管事務調査 ・生活道路の整備状況に係る9月会議以降の経過と今後の予定について協議 ・令和3年度予算編成に係る各課の重点施策について協議
令和3年1月 29 日	常任委員会 ・大雪・寒波に伴う町内産業及び施設等への影響・被害実態、今後の対応等について協議
令和3年3月 11 日	常任委員会、所管事務調査 ・①緊急浚渫推進事業について、②雪害に係るその後の経過、支援等の進捗状況について、③事業継続力強化支援計画について協議 ・令和3年度予算に係る各課の重点施策について協議
令和3年6月 14 日	常任委員会、所管事務調査 ・①町道整備について、住宅リノベーション補助、屋外広告物、②鳥獣被害対策、雪害被害の経過について、③事業者に対する新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 協議
令和3年9月 10 日	常任委員会、所管事務調査 ・①町道整備について、屋外広告物、治山ダムについて、②鳥獣被害対策について、③観光事業に係る新型コロナウイルス感染拡大下での対策、支援について 協議
令和3年 12月 13 日	常任委員会、所管事務調査 ・①町道整備について、屋外広告物、町管理の治山ダムについて、②鳥獣被害対策について、③観光事業に係る新型コロナウイルス感染拡大下での対策、支援について 協議
令和4年2月 14 日	常任委員会 ・提言(案)の検討

令和4年3月10日	常任委員会 ・調査報告(案)、提言(案)の検討
-----------	----------------------------

(2)現地調査

【開催日時】 令和2年9月10日(木)

【調査箇所1】 町道大平線

【内 容】

一般県道一関平泉線から一関市道までの 2324.8mの路線について、大平公葬地入口から終点までの 800mが未改良となっている。

舗装延長工事について、平成2年に町民からの陳情、平成24年に請願書が提出され、採択されている。

【課 題】

道路幅員が狭く、勾配が急峻であり、また改良のための用地買収については所有者不明の多数の共有地が存在し、一定の調査期間が必要であることが判明した。

その後所有者不明土地に関する法改正を受け相続登記未了の土地の調査が行われている。

【所 見】

長年にわたり生活道路として住民の道路改良の要望があり、様々な課題がある中で近年、調査のめどが立ち、平泉町総合計画実施計画による実施予定に至っている。

【調査箇所2】 町道大佐3号線及び町道樋の沢大佐線

【内 容】

町道大佐3号線 282.6mと町道樋の沢大佐線 649.2mの2路線が未改良となっている。

【課 題】

2路線の沿線には住宅も多く、火災などによる大型緊急車両の通行が不可能となっており、住民生活に支障をきたす状況となっている。

【所 見】

大佐3号線の改良に当たってはルートの決定が必要になり、樋の沢大佐線との2路線をつなぐ形の整備も考えられる。

【その他の調査箇所】

- ・町道認定されていない町道竜が坂滝ノ沢線に接続する滝ノ沢の道路
- ・町道認定されていない町道上街道線に接続する小戸・下長根の道路
- ・未舗装の町道、畠中三日町線、三日町4号線、三日町5号線

(3) 団体との懇談会

【開催日時】 令和4年1月20日(木)

【会 場】 平泉町役場 庁議室

【参 加 者】 農業委員 7名

産業建設常任委員 5名



【内容】

「農業を取り巻く現状と課題」として、農業委員会から「問題提起」を受け自由討議を行い、平泉農業の課題について共通認識を図り、本町農業の振興に活かすものとなった。また議会に対しての率直な要望も受けた。

【課 題】

- ・後継者不足
- ・収入・所得向上
- ・農機具の更新経費の負担
- ・現有農地の将来のありかた

【所 見】

とりわけ後継者不足は最大の課題である。営農を継続するうえでは、農業収入を増やし「生業として成り立つ」必要がある。また、農機具の更新のため町の支援策が必要であり、耕作地、未耕作地とも「農地」の将来のありかた(農地マスターplan)も早期に明確にしながら、将来展望に結び付ける必要がある。

(4) 平泉町議会議員に対する提言(案)の説明

令和4年2月28日及び令和4年3月16日に、議員へ提言(案)及び発議案を説明しました。

4. 提言

①社会基盤整備について

世界的な異常気象による度重なる自然災害は、私たち住民の暮らしを脅かし、加えて感染症によるパンデミックは出口の見えない不安を住民に強いている。

生活道路の課題では、特に陳情から30数年を経過した大平線、大佐3号線について現地調査も踏まえ議論し、整備に向けた課題の具体的な克服を繰り返し求めてきた。

相続関係未了にともなう課題とその解決への道筋が見えている。

産業建設常任委員会が求めた調査によって、生活道路で町道認定されていない道路が全体で 79 箇所、5,275 メートルとなっていること、また、生活道路で未舗装の町道が 55 路線、9,280 メートルであることが明らかとなった。

課題となってきた路線の実態も明らかになったことから、これらの整備の促進へ一層の努力をされたい。

維持管理が町に属する「治山ダム」の掌握と対応も引き続き努められたい。

②農業振興策について

町内農業をめぐっては、担い手、後継者不足が最大の課題であるが、根底には農業が「生業として成り立つか」という根本課題がある。

農家の収入増加への手立てが必要であり、以前から懸念されていた農機具等の更新にかかる経済的負担が大きく、農業機材への支援を講じられたい。

また、当町の基幹産業である農業に与える鳥獣被害は年々増加し、農地の荒廃や離農の大きな誘因となっている。

鳥獣被害の拡大を受け、狩猟の担い手確保の施策や鳥獣被害防止対策実施隊への支援が進められてきたが、まだ課題が多い。

豊かな里山を次の世代に残し、将来にわたって持続可能な人間の営みの構築のため、さらに世界農業遺産登録を目指し、鳥獣被害対策を含めた対策、仕組みづくりと、十分な財源を確保するよう提言する。

③観光・産業振興策について

未だ収束のめどが立たない新型コロナウイルス感染症の影響により、町内観光、商工業が大きな打撃を受けている。町は国の交付金事業に加えて、利子補給への支援などを行ってきたが、もともと体力のない事業者は長期化したコロナの影響により事業継続の意欲が低下していると思われる。

世界遺産登録から 10 年が経過し、昨年開館した平泉世界遺産ガイダンスセンターと平泉文化遺産センター、道の駅の魅力を生かした取り組みとともに、県内三つの世界遺産(平泉、橋野鉄鉱山、御所野遺跡)の連携を図った政策と提案の具体化を図られたい。

スマートインターの開通による交通網の促進、大型駐車場の利活用、そして中尊寺通りの整備完了など観光誘客の条件は整ってきている。

コロナ収束後を見据えて観光事業者への継続的な支援と平泉の世界遺産の新たな価値を見出す積極的な施策を打ち出すよう提言する。

また、近年は町内への企業誘致が相次いだが、コロナ禍での商工業への影響は大きくなっており、産業振興への一層の支援と工夫が求められる。

平泉町議会 産業建設常任委員会
委員長；升沢博子
副委員長；三枚山光裕
委員；千葉勝男、高橋伸二、大友仁子